

## 平成 28 年度 創成的研究奨励賞 受賞者

〔研究者〕
 <p>氏名 「持続可能な発展を目指した環境・社会経済システム研究」推進体（連絡先）時松宏治（トキマツコウジ）</p> <p>所属 環境・社会理工学院（イノベーション、土木・環境、融合）、工学院（経営工学）</p> <p>職名 イノベ系教授、土木・環境系教授、融合系准教授・助教、経営工学系特定教授・特定准教授</p>
〔タイトル〕
持続可能な発展を目指した環境・社会経済システム研究 ―パリ協定発効後の世界と日本を見据えて―
〔背景〕
<p>「持続可能な発展を目指した環境・社会経済システム研究」推進体（平成 27 年 6 月 1 日設置認可）は、工学、農学、経済学、政治学などの自然科学と社会科学の分析手法を用い、エネルギー・地球温暖化など環境・資源・開発に関連する地球規模の社会経済の持続的発展の課題に対して、その解決に資する学際的研究を推進することを目的として結成された。9 名からなるメンバーの構成は教育改革前より多様性に富み、現在 2/3 は本学院、1/3 は工学院とグローバルリーダー教育院（AGL）に所属する。海外との連携活動も積極的に行っている。本学-ウプサラ大のシンポジウムでは「エネルギーシステム分析」セッションにおいて貢献してきた。アジア工科大とも、パリ協定発効後の脱温暖化の社会実装に向けたアプローチを議論した。</p>
〔目的〕
<p>多様なメンバーに共通するテーマとして、パリ協定後の 2030 年頃の世界、アジアと日本の持続的な発展のあり方を探索するものとした。地球温暖化対策を進める国際的な枠組みであるパリ協定が 11 月 4 日に発効した。同協定は世界の約 200 カ国が参加する。地球温暖化を 2℃以内に収めるという目標を共有した、歴史的な合意である。今後の国際社会の発展の方向性が見出されたことは、あらゆる分野に影響を与える。以上の理由により、これを共通テーマとして選定した。共通テーマに向けてメンバー個別分野の研究を持ち寄りグループ討議し、考え得る社会像シナリオを 2,3 ケース程度、提示することを最終成果の目標とする。</p>
〔研究計画概要〕
<p>年度末の超繁忙期中、月一回程度の頻度での会合開催を行っている。2030 年の世界像を提示するための検討材料として、メンバーから提出される専門分野に関する基礎情報（関連背景、最新動向等）を元に、考え得る蓋然的な社会像シナリオを 2,3 ケース程度、提示する予定である。</p>

